

鉄で未来を 未来の鉄を



2022/3期 第3四半期 決算説明資料

2022年2月

大和工業株式会社
東証1部（証券コード：5444）

略語、会計年度、換算レート

● 略語の説明

	タイ	SYS	Siam Yamato Steel Co., Ltd.
	アメリカ	NYS	Nucor-Yamato Steel Company
	アメリカ	ASA	Arkansas Steel Associates, LLC
	バーレーン	SULB	Sulb Company BSC(c)
	サウジアラビア	Saudi Sulb	United Sulb Company (Saudi Sulb) LLC
	ベトナム	PY VINA	POSCO YAMATO VINA STEEL JOINT STOCK COMPANY
	韓国	YKS	YK Steel Corporation
	アメリカ	YKA	Yamato Kogyo America, Inc.
	アメリカ	YHC	Yamato Holding Corporation
	アメリカ	YK(USA)	Yamato Kogyo (U.S.A.) Corporation
	バーレーン	Bahrain Venture	United Steel Company("Sulb") Bahrain Venture Co.W.L.L.
	韓国	YKH	Yamato Korea Holdings Co., Ltd.

● 会計年度

	会計年度 (FY)	2021年度 (FY2021)	1Q	2Q	3Q	4Q
当社・国内子会社・ 関連会社	4月～翌3月	2021年4月 ～2022年3月 (2022/3期)	2021年 4～6月	2021年 7～9月	2021年 10～12月	2022年 1～3月
海外子会社・関連会社	1月～12月	2021年1月 ～12月 (2021/12期)	2021年 1～3月	2021年 4～6月	2021年 7～9月	2021年 10～12月

● 換算レート

		Yen/Dollar	Yen/Baht	Won/Yen
損益計算書	1-9月平均	109.13 (107.26)	3.45 (3.39)	10.36 (11.20)
	通期予想	110.39	3.44	10.37
貸借対照表	2021年9月末	111.95 (103.52)	3.30 (3.44)	10.58 (10.51)
	2021年12月末	115.02	3.43	10.31
	2022年3月末予想	113.00	3.40	10.50

- 決算ハイライト
- I 2022/3期 第3四半期決算の概要
- II 2022/3期決算の見通し

決算ハイライト – 2022年3月期 第3四半期(累計)

事業動向KPI



財務動向KPI



*グループ会社の販売量の単純合計。持分比率などは考慮せず



I 2022/3期 第3四半期 決算の概要

2022/3期 第3四半期 決算の概要（累計）

- H形鋼等の土木・建築用鋼材の需要は、国・地域ごとに回復度合いに濃淡がある状況。一方、中国の輸出抑制策・粗鋼減産等を受け需給が引き締まり、販売単価は概ね強含みで推移
- 利益については、ヤマトスチール(鉄鋼事業(日本))が原材料高により減益。一方、海外拠点での利益は堅調に推移。特に、持分法投資損益は前年同期比277%の大幅増。四半期純利益では、前期のYKS株式の売却に伴う特別損失が剥落し、前年同期比471%の大幅増

(億円)	2021/3期 3Q累計	2022/3期 3Q実績	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	1,087	1,077	▲ 10	▲ 1.0%
鉄鋼事業（日本）	295	408	113	38.5%
鉄鋼事業（韓国）*	335	—	▲ 335	—
鉄鋼事業（タイ国）	382	590	208	54.5%
軌道用品事業	60	53	▲ 7	▲ 10.7%
営業利益	86	85	▲ 1	▲ 1.8%
鉄鋼事業（日本）	27	14	▲ 13	▲ 48.4%
鉄鋼事業（韓国）*	25	—	▲ 25	—
鉄鋼事業（タイ国）	44	82	38	86.5%
軌道用品事業	6	5	▲ 1	▲ 21.0%
経常利益	175	396	221	126.3%
持分法投資損益	76	288	212	276.6%
親会社株主帰属四半期純利益	48	278	230	470.8%
営業利益率	7.9%	7.9%	▲0.0pp	—
経常利益率	16.1%	36.8%	+20.7pp	—

* 2020年9月に子会社から持分法適用会社に変更

2022/3期 第3四半期 決算の概要 (四半期)

- 3Qは対2Q比で増収増益。販売価格上昇でマージン改善。輸出市場の環境改善が進んだ鉄鋼事業(タイ)が営業増益に貢献。また、堅調な形鋼需要が続く米国事業が経常増益を牽引
- 3Qの前年同期比も増収増益。輸出市場の環境改善が進んだ鉄鋼事業(タイ)が大きく貢献し営業増益。また、経常利益はコロナ禍からの経済回復が鮮明な米国をはじめ、海外拠点で市場環境改善やマージンの改善が進み、大幅増益

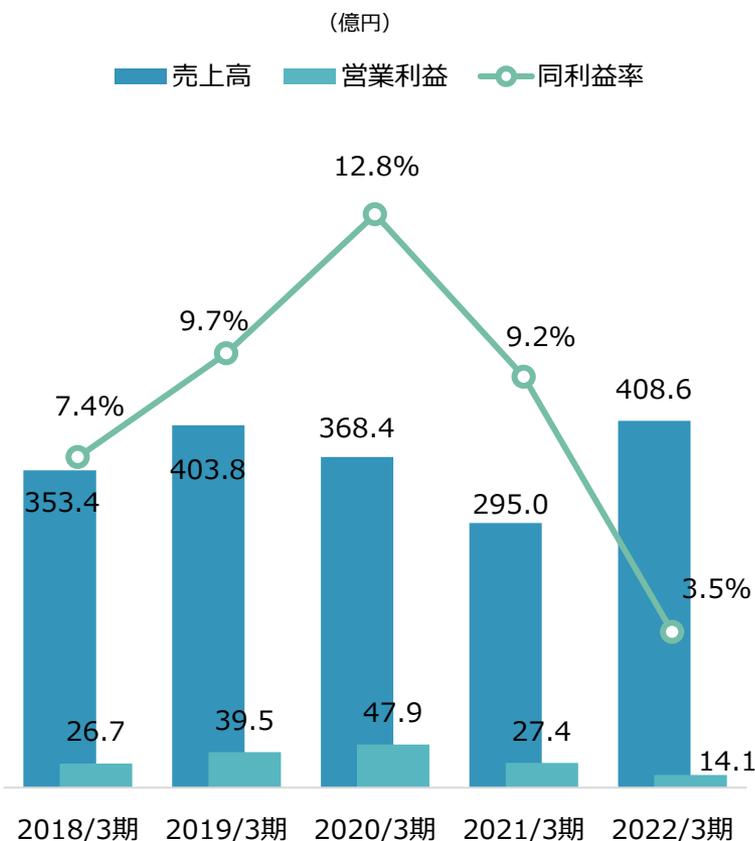
(億円)	2021/3期				2022/3期			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
売上高	382	459	245	272	328	349	400	—
鉄鋼事業 (日本)	92	102	100	104	116	134	159	—
鉄鋼事業 (韓国)	118	219*	—	—	—	—	—	—
鉄鋼事業 (タイ)	149	111	121	138	188	187	216	—
軌道用品事業	17	22	20	20	16	21	17	—
営業利益	30	37	18	13	16	21	47	—
鉄鋼事業 (日本)	10	8	7	4	2	3	9	—
鉄鋼事業 (韓国)	6	18*	—	—	—	—	—	—
鉄鋼事業 (タイ)	16	14	14	12	18	21	43	—
軌道用品事業	1	2	2	1	1	3	1	—
経常利益	74	54	45	40	83	128	185	—
持分法投資損益	35	13	26	8	63	101	124	—
親会社株主帰属四半期純利益	51	▲31	29	1	55	93	129	—
営業利益率	8.0%	8.2%	7.6%	4.9%	4.9%	6.1%	11.9%	—
経常利益率	19.5%	11.9%	18.5%	14.9%	25.3%	36.7%	46.2%	—

* 4~8月の5か月決算 (9月に子会社から持分法適用会社に変更)

セグメント別決算概要 ①鉄鋼事業（日本）

- 形鋼の市中の荷動きは盛り上がり欠ける状況が継続。高炉メーカーが鋼板類に注力しているなか、積極的に新規顧客の開拓に取り組んだ結果、販売数量は前年同期比で増加
- コスト高が収益を圧迫し、セグメント損益は前年同期比で増収減益。一方で、コスト低減や販売価格の押上げにより、収益性は改善傾向に

業績推移 – 3Q(累計)



収益増減要因

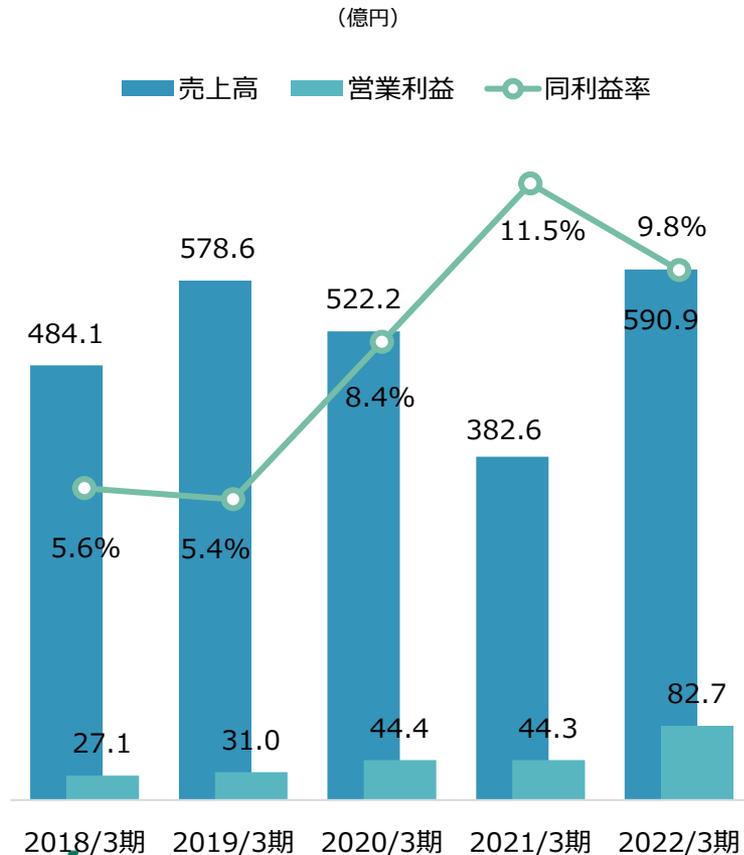
- 事業環境
 - ✓ 形鋼の市中在庫は微増傾向。値上がりのピッチは鈍い
 - ✓ 高炉メーカーは鋼板類に注力
 - ✓ 鉄スクラップ価格の高止まりに加え、合金鉄価格や燃料価格等の上昇基調が継続
- ヤマトスチールの動向
 - ✓ 積極的な新規顧客開拓により主力の物件向けH形鋼の受注は堅調。販売数量は3Q累計で11.4%増の41.6万トン
 - ✓ 市中在庫の引き締めやサイズ・鋼種エキストラ価格の改定等による販売単価の押し上げを図り、3Q鋼材マージンは前年度平均にまで回復

	2021/3期				2022/3期			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
万トン、千円/トン								
販売数量	11.5	13.1	12.6	12.3	12.9	13.7	15.1	-
鋼材マージン	50.5	46.0	42.8	39.3	37.2	40.8	44.9	-

セグメント別決算概要 ②鉄鋼事業（タイ国）

- 国内の形鋼需要は感染症再拡大による建設工事の停滞等で鈍化。一方、輸出市場では、中国・韓国鉄鋼メーカーの輸出圧力低下により競争環境が緩和。輸出市場でのシェア拡大に取り組み、販売数量は前年同期比増加
- 鉄スクラップ高継続も、輸出市場での販売数量及び販売価格の上昇が貢献し、セグメント損益は前年同期比で増収増益

業績推移－3Q(累計)



収益増減要因

- 事業環境
 - ✓ 国内外ともに、感染症再拡大を受け形鋼需要はスローダウン
 - ✓ 輸出抑制策等により輸出圧力が低下していた中国メーカーに加え、韓国メーカーの東南アジア向け輸出量も減少。3Qに入り輸出市場の環境改善が一層進む
 - ✓ タイ国内への輸入材流入も減少傾向
- SYSの動向
 - ✓ 輸出市場の競争環境緩和を受け、シェア拡大に取り組む。対ドルでのパーツ安基調も輸出競争力を下支え。販売数量は3Q累計で前年同期24%増の65万トン
 - ✓ 鉄スクラップ高局面が継続するも、輸出価格の改善から鋼材マージンは3Qに大幅に改善。販売数量の増加も貢献し、前年同期比で増益

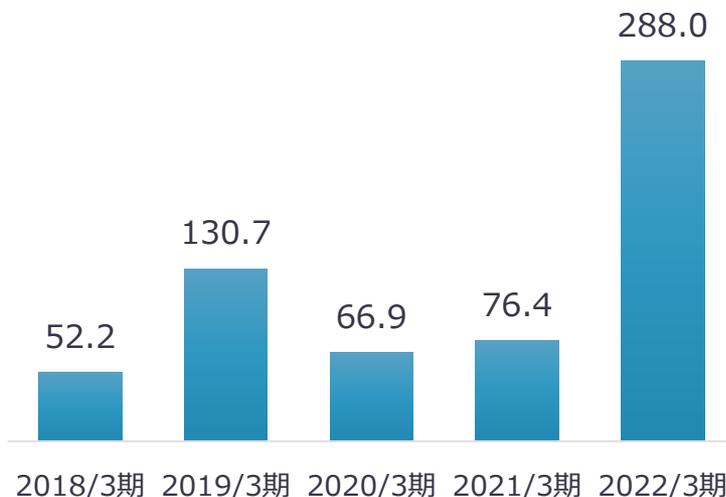
(万トン、千B/トン)	2021/3期				2022/3期			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
販売数量 (半製品含む)	20.6	15.5	16.8	18.8	24.1	21.0	20.7	-
鋼材マージン	12.5	13.3	12.4	11.7	11.1	12.3	17.2	-

持分法適用会社の状況

- 世界的に鉄鋼需給が引き締まり、販売価格が改善。各拠点とも業績は前年同期を上回る。持分法利益は前年同期比277%増
- 地域別には、米国が力強い非住宅建設需要等を背景に鋼材マージンが拡大、前年同期比で大幅増益。中東では輸入材の圧力低下等による市場環境の改善を受け、販売面の改善が継続。アジアでは、ベトナム・韓国共に販売価格の押上げ等により堅調に収益を計上

持分法投資損益の推移 – 3Q（累計）

（億円）



損益増減要因

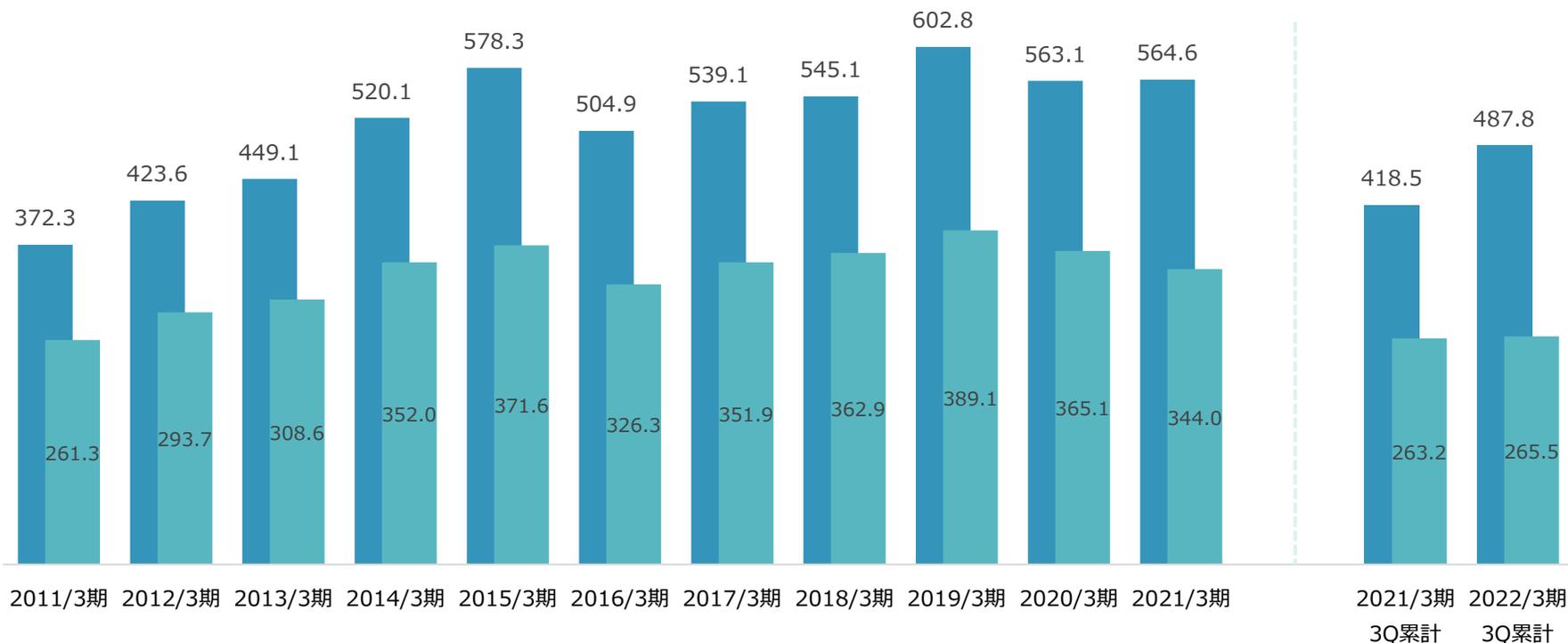
- 米国
 - ✓ 力強い非住宅建設需要に牽引され形鋼需要が改善するなか、積極的な受注活動を展開。販売数量は前年同期比で増加
 - ✓ 形鋼需給の引き締まりを背景に、鉄スクラップ価格の上昇を上回る形鋼価格の値上げを実現。鋼材マージンの拡大基調が継続
 - ✓ 販売数量の増加及び鋼材マージンの拡大により、前年同期比で大幅な増益
- 中東
 - ✓ 世界的な鋼材需給の引き締まりや輸入材の流入圧力低下を受け、市場環境はやや改善
 - ✓ 夏場の鉄鉱石価格下落を受け、顧客は値下がりを期待し様子見姿勢に
 - ✓ GCC域内での採算重視の受注活動と生産量確保のための輸出とのバランスを取り、業績は前年同期比で改善
- アジア
 - ✓ ベトナムでは、形鋼需要は経済回復による改善と感染症再拡大による悪化で一進一退。操業改善等によるコスト削減と販売価格の押上げにより、業績は底堅く推移
 - ✓ 韓国は住宅建設等の増加を受け鉄筋需給バランスが改善し、販売単価が上昇。業績は堅調に推移

グループ総販売数量の推移

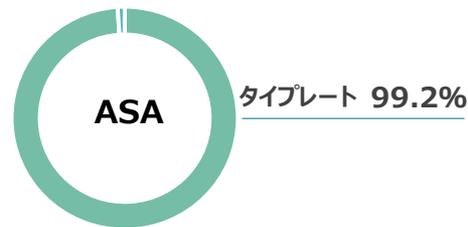
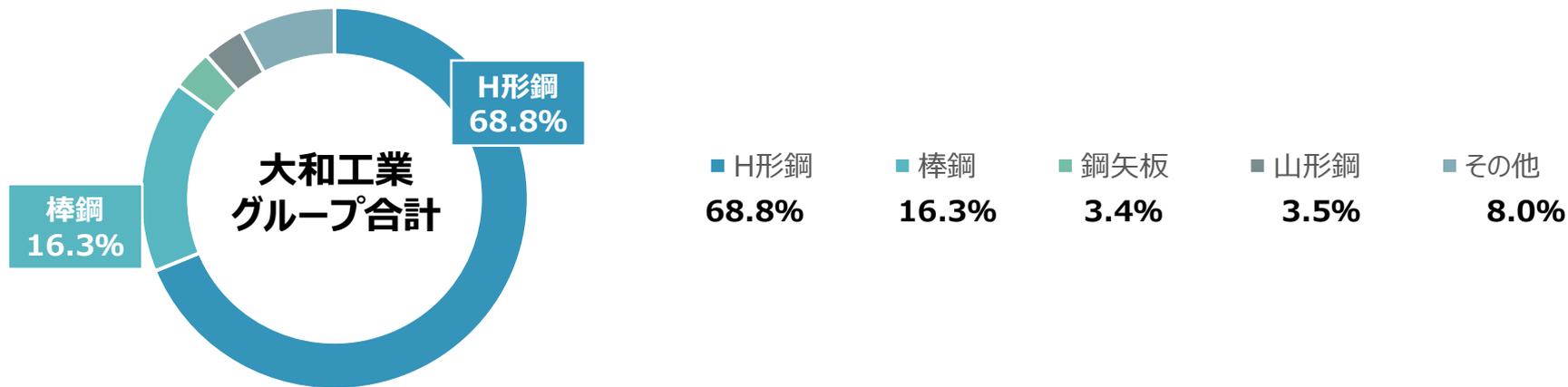
- 3Q累計のグループ総販売数量は前年同期比16.5%増の487.8万トン。全拠点で前年同期を上回る
- 持分比率勘案ベースでは、韓国YKSへの持分比率の低下があるも、全体では0.9%増の265.5万トン

グループ総販売数量*¹の推移 (万MT)

■ グループ総販売数量 ■ 持分比率勘案ベース販売数量 *²



製品構成 (2021年度3Q累計実績)



B/Sの状況

- 有利子負債ゼロに変化なし。自己資本比率84.3%
- 鋼材・原材料価格の上昇及び円安を主因として、総資産・負債純資産は増加

(億円)	2020/3期	2021/3期	2022/3期 3Q	前期比増減
流動資産	1,628	1,500	1,601	101
現預金	1,000	1,016	924	▲ 92
売掛債権	254	176	287	111
棚卸資産	343	281	366	85
固定資産	2,202	2,098	2,306	208
有形固定資産	722	621	586	▲ 35
投資その他の資産	1,474	1,462	1,703	241
投資有価証券	474	457	517	60
長期預金	224	213	230	17
総資産	3,830	3,598	3,907	309
負債	404	340	382	42
買入債務	109	75	104	29
繰延税金負債	118	120	126	6
純資産	3,426	3,258	3,524	266
為替換算調整勘定	107	▲ 22	106	128
非支配株主持分	248	238	231	▲ 7
負債純資産合計	3,830	3,598	3,907	309

設備能力の戦略的増強やM&A
案件への機動的対応に向けての
余力を確保

鋼材及び原材料市況の上昇、
需要の回復を受け、売掛債権/
棚卸資産が増加

金融資産*は1,254億円と
前期末比69億円減少
(為替の影響+75億円)

自己資本比率は84.3%

堅調な業績及び
円安を主因として増加

*金融資産 = 現預金 + 投資有価証券 (除く: 非連結子会社及び関連会社向け) + 長期預金

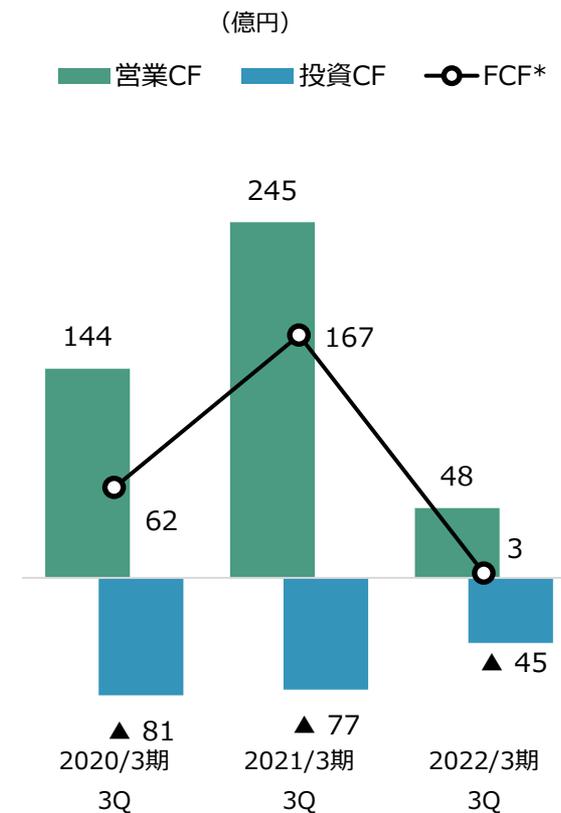
キャッシュフローの状況

- FCFは運転資本の増加により前年同期比▲164億円の+3億円
- 投資CFは韓国/YKSの前期の課徴金に関連したYKS株式の譲渡価額調整による▲21億円を計上
- 財務CFは配当の支払い、自社株買いによる株主還元等で▲155億円(前年同期比58億円の支出増)

(億円)	2020/3期 3Q	2021/3期 3Q	2022/3期 3Q	前年同期比 増減
営業CF	144	245	48	▲ 197
投資CF(定期預金増減除く)	▲81	▲ 77	▲ 45	32
有形固定資産取得	▲79	▲ 40	▲ 26	14
連結範囲の変更を伴う 子会社株式の売却	—	▲ 0	▲ 21	▲ 21
FCF*	62	167	3	▲ 164
財務CF	▲63	▲ 96	▲ 155	▲ 58
自社株買い	▲63	▲ 25	▲ 68	▲ 43
配当金支払	▲56	▲ 57	▲ 61	▲ 4

* FCF=営業CF+投資CF(定期預金増減除く)で算出

FCFの推移





Ⅱ 2022/3期決算の見通し

2022/3期決算見通し

- 売上高は前回予想比据え置き、営業利益は8.0%増益(+10億円)の135億円を想定。前回予想比では鉄鋼事業(日本)は増収増益、鉄鋼事業(タイ国)は減収増益を見込む
- 持分法投資損益では、中東事業の業績が前回予想を上回る見込み。その他持分法各社については概ね前回予想通りの見通し。経常利益は前回予想比1.8%増益(+10億円)の560億円の予想
- 当期純利益385億円は過去最高を更新する見通し

(億円)	2021/3期*	2022/3期		前期比		前回予想比	
		前回予想 (2021/10/29)	今回予想 (2022/1/31)	増減額	増減率	増減額	増減率
売上高	1,360	1,500	1,500	140	10.3%	0	0.0%
営業利益	100	125	135	35	34.8%	10	8.0%
経常利益	216	550	560	344	159.6%	10	1.8%
持分法投資損益	85	—	—	—	—	—	—
親会社株主帰属当期純利益	50	380	385	335	672.4%	5	1.3%
営業利益率	7.4%	8.3%	9.0%	1.6pp	—	0.7pp	—
経常利益率	15.9%	36.7%	37.3%	21.4pp	—	0.6pp	—

* 鉄鋼事業(韓国)のYKS 2020年9月に子会社から持分法適用会社に変更

セグメント別決算見通し

連結子会社

鉄鋼事業（日本）

- 形鋼需要の動向に関しては前回予想時点から大きな変化は無し。受注は堅調に推移
- 鉄スクラップ市況の高止まりに加え、合金鉄や燃料コストの上昇基調が続くも、コスト低減や販売価格押上げの浸透を図り、収益性の回復に努める。前回予想比で増収増益を予想

鉄鋼事業（タイ国）

- 洪水や建設現場の人手不足等からタイ国内の建設活動に鈍化が見られ、販売数量は減少の見込み
- 販売価格は輸出市場での中国・韓国メーカーとの競争環境緩和を受け、前回予想時よりも堅調に推移する見込み
- 前回予想比では若干の減収ながら増益を見込む

持分法適用会社

米国

- 建設現場の人手不足やサプライチェーンの停滞等により、一時的に建設工事に遅延がみられる案件があるも、非住宅建設需要、形鋼需要とも好調に推移
- 製品価格の値上がりが進んでいる事から、業績は堅調を維持し概ね前回並みの予想。前年比では大幅増益

中東

- GCC域内での建設活動の本格的な回復には時間を要する見込みに変化は無く、また原材料市況も不安定な状況も、GCC形鋼市場での採算重視の営業活動と生産量確保のための製品輸出や中間材の販売等でバランスをとり、業績は前回予想を上回る見通し
- コスト低減の取り組みや新規輸出先の開拓、世界的な鉄鋼需給の引き締まりに伴う輸入材の圧力低下や販売価格の改善等により、当期の業績は黒字確保の見通し

ベトナム

- 行動制限の緩和を受け停滞していた建設活動に再開の動きがみられるものの、本格的な回復には至っていない状況
- 建設活動の停滞があった一方で、形鋼価格に落ち込みが見られなかった事から、業績は前回予想並みを見込む
- マレーシアからの輸入H形鋼に対するアンチダンピング調査は8月に関税率10.64%（5年間）の措置が正式発効。貿易障壁としての効果を期待

韓国

- 鉄筋需要の動向は、前回予想時点から大きな変化は無く、実需は底堅く推移
- 鉄スクラップ高などのコスト上昇要因はあるものの、販売価格は強含みを維持しており、業績は概ね前回予想並みの見通し

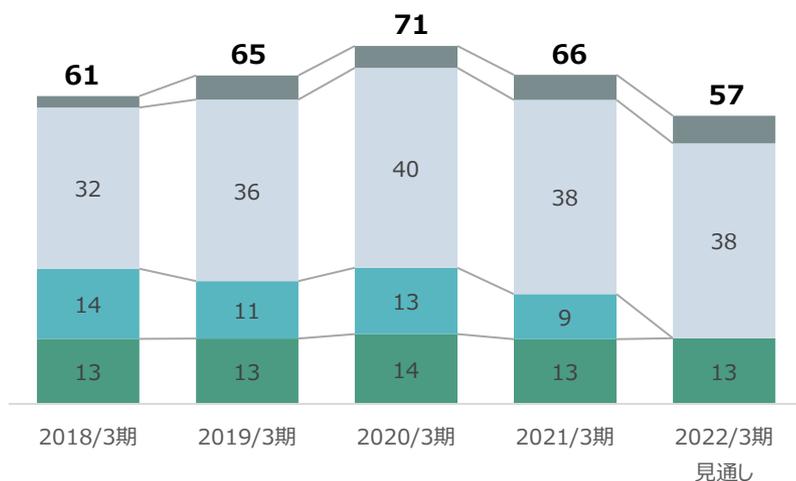
減価償却費 及び 設備投資の推移と想定

- 設備投資は全体として約3割減の見通し。主因は、SYS(鉄鋼事業(タイ国))が大型投資の端境期を迎えたことと、YKS(鉄鋼事業(韓国))の持分法適用会社化

減価償却費

(億円)

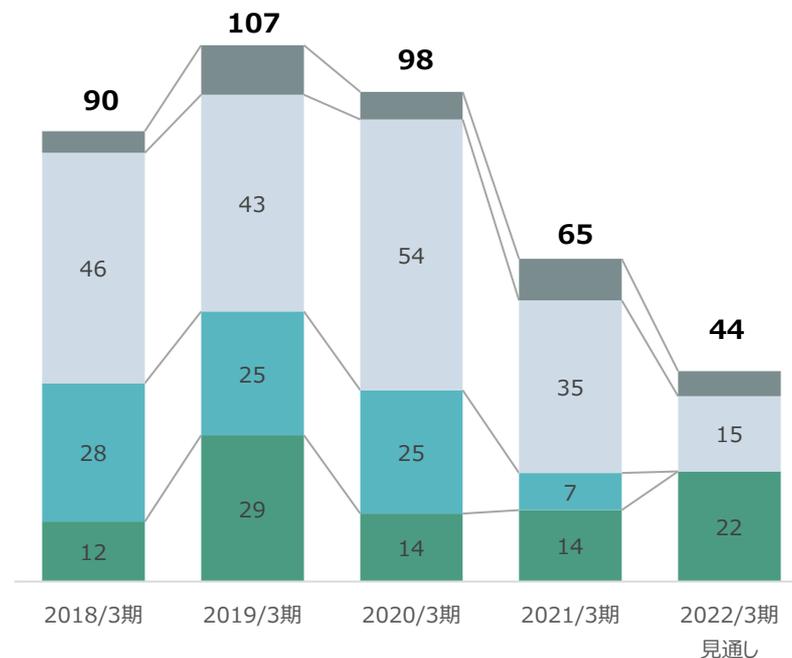
■日本 ■韓国 ■タイ ■その他



設備投資

(億円)

■日本 ■韓国 ■タイ ■その他

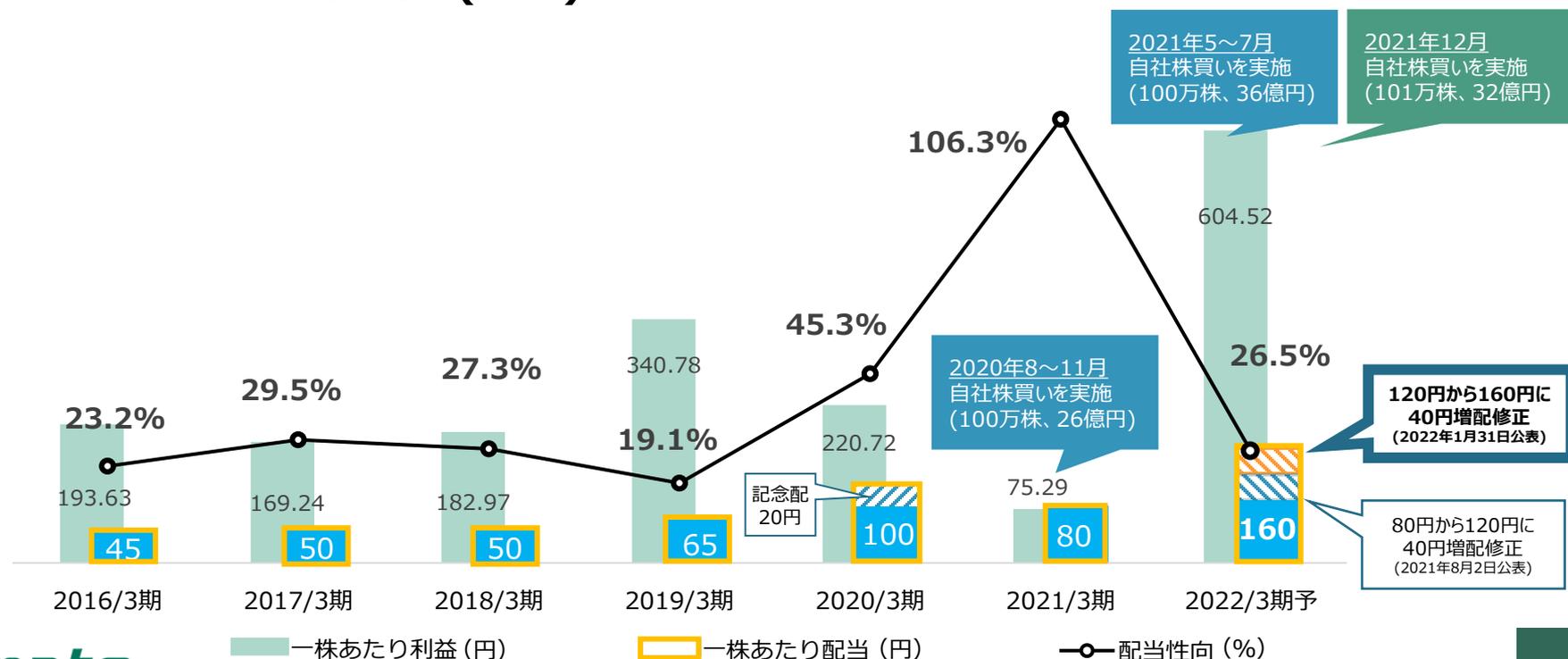


株主還元 — 増配修正について

前回公表値を40円増額修正し、2022/3期の期末配当予想を1株あたり普通配当100円に修正。年間配当予想は1株当たり160円で、過去最高

➤ 2022/3月期 年間配当予想(1株あたり配当金) ※()内は前年度実績

中間配当	60円	(40円)
期末配当(予定)	100円	(40円)
年間配当(予定)	160円	(80円)



ご留意事項等

- 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社グループが現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。
- また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。



大和工業グループは
ヴィクトリーナ姫路を応援しています。



©2016 Himeji Victorina CO., LTD.